

授業改善プラン

地域名	東上総教育事務所	学校名	大網白里市立瑞穂小学校
-----	----------	-----	-------------

1. 課題（これまでの全国学力・学習状況調査結果等から）

- 平成31年度の調査においては、数と計算領域で、減法の計算の仕方についてまとめたことを基に、除法の計算の仕方についてまとめる設問に課題があった。また、図形領域では、図形の性質や構成要素に着目し、他の図形を構成する設問に課題があった。
- それぞれの問題の思考過程について考えたり、それを算数用語を正しく用いてわかりやすく説明したりするなどの、思考力、表現力が育っていないと考えられる。

2. 取組のポイント（仮説、改善方法等）

- つまずきや誤答を含む、自他の思考過程に関心をもって話し合う場を設定すれば、思考し表現する力が高まるだろう。

3. 具体的な実践

- 第5学年「面積」【別添資料1】
 - ・つまずいている児童の考えを全体で取り上げ、どこでつまずいているのか、どこを間違えたのか、解決に向けて話し合う場を設定した。また、比較・検討の場面で、図、式、それを説明する児童に分担して説明させた。
- 第2学年「ひき算のひっ算」【別添資料2】
 - ・予想される誤答をキャラクターの誤答として提示し、キャラクターにどこが間違えているのか教えてあげるような説明を書いたり話し合ったりした。
- 学習コーナーによる誤答等の掲示【別添資料3】
 - ・児童がつまずきやすい問題や児童の誤答を学習コーナーに掲示し、児童が確認できるようにした。

4. 成果

- 全体的話し合いの場で、児童のつまずきや誤答を取り上げて話し合ったことで、自分の考えを見直したり解決の見通しをもったりし、自力解決に向かうことができた。
- 話し合う場を意図的に設定したことで、児童は様々な考えがあることに気づき、自分の考えが伝わったり友達に認められたりすることにより、さらに深く考えようとする姿が見られた。
- キャラクターによる誤答を提示し、アドバイスを考えて書かせる活動は、低学年の児童の発達段階に適しており、意欲的に自分の考えを表現させることができた。

◆担当指導主事から（東上総教育事務所 指導主事 木島 千景）

- 全国学力・学習状況調査の結果を丁寧に分析し、自校の課題を捉え、全職員で熱心に研究に取り組まれており、教材研究にける熱量を感じた。検証授業では、教師と児童が「つまずきや誤答」を真剣に考え、学び続ける姿が見られ、思考力・表現力の育成につながっていた。